

2024年2月の総評に代えて

○林 桂○

●さいう●(愛知県 19歳)

自傷行為

として

こおりを噛むときの

日焼けしてゆくセーラーの襟

【評】固い氷をかみ砕く行為を、自傷行為と見立てる奇抜さと面白さ。痛みがあり説得力がある。一方に「日焼けしてゆくセーラーの襟」の健康的な側面がある。このアンバランスに、しばらく揺蕩うて出てゆけない。

●源楓香●(東京都 22歳)

月光が、

アルツハイマーの祖母を照らす

僕が覚えておくからいいよ

【評】「僕が覚えておくからいいよ」は、覚えていること、忘れることの意味の深さを考えさせてくれる。祖母への優しい思いの言葉だが、ある場面を当事者が覚えておく必要があるのかどうかを思う。その場面を大切に思う

人が心に刻んでおけばいいのかもしれない。

●吉沢 美香●(宮城県 24歳)

蝶の昼さりさりさりと砂時計

【評】なぜか「草二本だけ生えてゐる 時間」(富澤赤黄男)を思った。砂時計が計るには茫々とした時間が、蝶の昼には流れている。

●玻璃●(愛媛県 29歳)

上履きを洗う

ママがずっとみてる

【評】学校の上履きは、週末に持ち帰って洗ってくるという指導をしている小学校がある。しかも、自分で洗うように指導する。いわばこの宿題の監視役として、ママはずっとみているのだ。回想だろうが、今になってみれば、「ずっとみている」に別の意味があったのかもしれない。

●現人●(東京都 22歳)

ちゃんと考えてはいたんだよ  
手を挙げなかっただけで

【評】元気よく挙手する子ばかりではない。手の挙げられない子もいる。さりとして出された問題を考えていないわけではない。真剣に考えている。心中密かに答えあわせをしたりする。これも参加の形。多くはこちら側の子か。

●林 みき●(東京都 46歳)

なごり雪星のかたちに握りしめ

【評】春の湿った雪は、握ると手の中で、手の形を残したまま固まる。指の形が残ると、それが星の形に見える。幼い視点の印象を記憶していたのだろう。

●加那屋こあ●(東京都 52歳)

錆びて  
淋しい  
残雪の  
三輪車

【評】一行目、二行目で、頭韻を踏む。さらに四行目でも踏む。三行目だけが踏んでいないが、これは四行全体が「起承転結」の構成

をとっているからだろう。三行目は「転」。それを韻でも示している。定型詩として美しい。

●金光 舞●(埼玉県 17歳)

熱のある母さんのため買って来た  
ばにらあいすをゆるりとすくう

【評】「ゆるりとすくう」は、食事介助だろう。二行目の全ひらがなが効果的。ゆるりを体現している。

●小里京子●(北海道 31歳)

真夜中に  
羽化をしてるアコーディオン

【評】言われてみれば、アコーディオンは羽化しそうなサナギ体型である。だれも見えない真夜中には、羽化するという想像をしてみたくなる。

●狛犬 吠●(岡山県 21歳)

音のないトムとジェリーが  
繰り返し流れる待合室で眠った

【評】「待合室」はどこのだろう。臨時に眠らなければならない状況であることは間違いない。消音された「トムとジェリー」が、つれづれを慰めるために流されている。子ども向けか。確かにこのアニメは音を消しても判る。この選択に感心させられる。